

Beyond Productivity and Word-Formation Insights from Onomasiological Theory

日時：2026年2月19日(木) 13:20 - 16:50

場所：筑波大学つくばキャンパス第一エリア 1D棟 201教室

「新たな語はどのように生成され、解釈されるか」という言語学の問題について、名義論 (onomasiological theory) の枠組みを軸にして検討する国際ワークショップ (TMM3) を開催します。この枠組みの特徴は、語の形成や解釈も、話し手のコミュニケーション上の意図（「何をどのように伝えたいか」）から出発すると考える点にあります。スロバキアを拠点に活躍している名義論の著名な研究者による講演や発表に、構文形態論、分散形態論を専門とする日本人研究者による発表をおりまぜ、語の意味や生産性、創造性、競合といった言語学の概念に関して、フロアの参加者とのやり取りを交えながら、文化論、言語教育なども含めた幅広い観点から議論していきます。多くの研究者、学生の皆様のご参加をお待ちしております。

Program

司会：納谷亮平(筑波大学)

13:20 – 13:30 イントロダクション

13:30 – 14:25

Lívia Körtvélyessy (Pavol Jozef Šafárik University, Slovakia)

On the Interplay of Productivity, Creativity, and Structural Richness

14:30 – 15:00

Pavol Štekauer (Pavol Jozef Šafárik University, Slovakia)

Competition between Word-Formation Strategies in View of Meaning Predictability

15:00 – 15:15 休憩

15:15 – 15:45

古賀 健太郎 (青山学院大学)

A Constructionist Approach to the Formation of Phrasal Names in French

15:50 – 16:20

田川 拓海 (筑波大学)

Japanese Denominal Verbs in Digital Game Discourse

要旨など詳細は[こちら](#)

16:20 – 16:50 全体討論

企画：島田 雅晴 (筑波大学)・納谷 亮平 (筑波大学)・長野 明子 (静岡県立大学)

共催：筑波大学人文社会系

本ワークショップはJSPS科研費JP24K03961, JP24K03966の助成を受けています。

